



政府統計



総務省

死因究明等の推進に関する取組に係るアンケート調査 (大学)

総務省行政評価局

総務省行政評価局では、平成31年4月から「死因究明等の推進に関する政策評価」を実施しております。

死因究明等の推進に係る政策をより良いものとしていくため、策定から5年を迎える死因究明等推進計画に基づく各府省の取組について、政策が総合的に推進されているか等の観点から、関係機関の各種事業等の実施状況や効果などについて調査を進めているところです。

今回送らせていただいた本アンケートは、その調査の一環として、貴大学における死因究明等に係る取組の実情をお尋ねするもので、統計法（平成19年法律第53号）第19条第1項の規定に基づき、総務大臣の承認を受けて実施するものです。

この調査票に記入された内容については、統計以外の目的に使ったり、他にもらしたりすることはありません。

総務省の調査に
ご協力をお願いします



政策評価のマスコットキャラクター

【本調査についてのお問合せ・提出先】□

総務省行政評価局 内閣、総務等担当室

担当 : ヨシダ 吉田、タナカ 田中、サガ 嵯峨、マツウラ 松浦

電話 : 03-5253-5441 (直通)

メール : kans2059@soumu.go.jp

令和元年（2019年）12月23日（月）までに御回答ください

死因究明等の推進に関する取組に係るアンケート調査（大学）

大学名	回答者の所属課（複数課の場合は、全て御記入ください。）
●●大学	

- 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】と記載されている設問については、大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関（剖検センター、Aiセンター等）の状況、実績等も合わせて御回答いただくようお願いします。
- 【教授等にお伺いします】と記載されている設問については、教授等、実際に死因究明等に携わっている方に御回答いただくようお願いいたします。
- 平成30年度実績で御回答ください。なお、設問によっては平成23年度、28年度、29年度、30年度、令和元年度（令和元年度は4月から10月末まで）のように期間を指定している設問がありますので御注意ください。
- 「回答欄」には、具体的な回答を御記入いただくものや「自由記載欄」としているものを除き、該当するものに「○」を御記入ください。その際、いずれか一つに「○」を御記入いただく質問と該当するものすべてに「○」を御記入いただく質問がありますので、御注意ください。また、「その他」に該当する場合は、「その他」の回答欄に「○」を御記入いただくとともに、その下欄に具体的な内容を御記入ください。

No	質問事項	回答欄	選択肢等
1	死因究明等に係る業務（検案、解剖、Ai、薬毒物検査、身元確認）に実際に携わっている学部を御回答ください。（複数回答可）		医学部 歯学部 薬学部 その他（下欄に具体的に御記入ください）
死因究明等の専門機関についてお伺いします。			
2	令和元年10月末現在において、死因究明等の専門機関（剖検センター、Aiセンター等）は設置されていますか。		設置されている 設置予定 ⇒ No. 8以降を御回答ください 設置について検討中 ⇒ No. 8以降を御回答ください 未設置（設置予定なし） ⇒ No. 9以降を御回答ください
No. 2で「設置されている」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
3	設置時期はいつですか。	平成●年●月	左欄に和暦で御回答ください
4	当該専門機関ではどのような業務を行っていますか。（複数回答可）		検案 解剖 Ai 薬毒物検査 身元確認 法医の養成・教育 その他（下欄に具体的に御記入ください）
5	平成30年4月1日時点における当該専門機関の職員体制について、別表1を御回答ください。		
6	設置された経緯はどのようなものですか。（複数回答可）		大学での自発的な検討の結果による 文部科学省からの要請、設置を求める意見による 死因究明等推進協議会での検討の結果による 地域の関係機関（警察、海保、医師会等）からの要請、設置を求める意見による 都道府県議会からの要請、設置を求める意見による 首長からの提言・指示による その他（下欄に具体的に御記入ください）
7	設置された目的はどのようなものですか。（複数回答可）		死因究明等の効率化を図るため より専門的な知見を活用するため 死因究明等に関わる人材を育成するため その他（下欄に具体的に御記入ください）
⇒No. 10以降を御回答ください			
No. 2で「設置予定」、「設置について検討中」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
8	設置予定時期はいつ頃ですか。未定の場合は、その旨を御回答ください。	令和●年●月頃	左欄に和暦で御回答ください
⇒No. 10以降を御回答ください			
No. 2で「未設置（設置予定なし）」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
9	その理由はどのようなものですか。（複数回答可）		現状の体制で十分に死因究明等が行えている 人員、体制が不足している 財政的な負担が大きい その他（下欄に具体的な内容を御記入ください）
死因究明等の専門機関の設置有無にかかわらず、以下の間に御回答ください。			
10	【教授等にお伺いします】 死因究明等の専門機関の設置、運営に関し、悩みや課題、国に支援してほしいことなどはありますか。（自由記載）		左欄に具体的に御回答ください
貴大学における死因究明等に係る体制等についてお伺いします。			
11	平成30年4月1日時点で、貴大学において、警察医、検視立会い医、協力医等として警察に事前に登録や囑託等されている医師数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		人

No	質問事項	回答欄	選択肢等
12	平成30年4月1日時点で、貴大学において遺体の解剖を行うことができる教授等は何名在籍していますか。下記の人数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	法医学（教授、准教授）		人
	解剖学（教授、准教授）		人
	病理学（教授、准教授）		人
	死体解剖保存法第2条第1項第1号でいう認定を受けた者		人
	その他		人（下欄にその者の専門分野や身分等を御記入ください）
13	【教授等にお伺いします】 解剖を実施する際に、どのように担当者を決めていますか。 （該当するもの一つに○）		司法解剖、調査法解剖、行政解剖等、解剖種別ごとに担当する者を決めている 解剖種別によらず、輪番制にしている 解剖種別によらず、解剖が必要なときに実施可能な者が行う 解剖種別によらず、希望する者が行う 解剖できる者が1人しかいない その他（下欄に具体的に御記入ください）
警察等取扱死体に対する検案業務の実績についてお伺いします。			
14	貴大学において、下記の期間に実施した警察等取扱死体の検案体数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	平成23年度		体
	平成28年度		体
	平成29年度		体
	平成30年度		体
15	平成30年4月1日時点で、貴大学において警察等取扱死体の検案を実施している医師数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		人
16	No. 15で御回答いただいた医師数のうち、下記についてそれぞれの人数を御回答ください。（複数該当する者については、該当する欄全てに計上してください）。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	警察医、検視立会い医、協力医などとして警察に事前に登録や嘱託等されている医師		人
	監察医		人
警察等取扱死体に対する解剖業務の実績についてお伺いします。			
17	貴大学において、平成23年度、28年度、29年度、30年度に実施した警察等取扱死体の解剖実施体数について、別表2を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
18	平成30年4月1日時点で、貴大学において、警察等取扱死体の解剖を実施している教員等数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	教員（非常勤を除く、医師）		人
	教員（非常勤を除く、歯科医師）		人
	教員（非常勤を除く、その他）		人
	大学院生等（研究生含む。医師）		人
	大学院生等（研究生含む。歯科医師）		人
	大学院生等（研究生含む。その他）		人
	職員（解剖補助員等、常勤）		人
	職員（解剖補助員等、非常勤）		人
19	No. 18で御回答いただいた教員等数の専門別の人数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	法医学（教授、准教授）		人
	解剖学（教授、准教授）		人
	病理学（教授、准教授）		人
	死体解剖保存法第2条第1項第1号でいう認定を受けた者		人
	法医認定医		人
	警察医、検視立会い医、協力医などとして警察に事前に登録や嘱託等されている医師		人
	その他		人（下欄にその者の専門分野や身分等を御記入ください）
20	貴大学では、警察等取扱死体の解剖時に採取した試料について、保存期間、保存場所等の保存基準を設定していますか。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		設定している 設定していない ⇒ No. 24以降を御回答ください

No	質問事項	回答欄	選択肢等
No. 20で「設定している」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
21	保存期間を設定していますか。 (該当するもの一つに○) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		採取した試料ごとに異なる期間を設定している ⇒ No. 23以降を御回答ください 一律の期間を設定している 裁判が終了するまで保存 ⇒ No. 23以降を御回答ください その他(下欄に具体的に御記入ください) ⇒ No. 23以降を御回答ください 設定していない
22	No. 21で「一律の期間を設定している」と御回答された場合、設定している期間はどの程度ですか。 (該当するもの一つに○) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		1年未満 1年以上5年未満 5年以上10年未満 10年以上
23	保存期間以外にはどのようなものを定めていますか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		保存する試料の種類(臓器、血液、血清等) 保存場所(業務用冷蔵庫等) 試料ごとの保存条件(マイナス●度以下で冷蔵(冷凍)保存等) その他(下欄に具体的に御記入ください) 保存期間以外には特に定めていない
保存基準等の設定の有無にかかわらず、御回答ください。			
24	【教授等にお伺いします】 試料の保存基準等について、悩みや課題、国に支援してほしいことなどはありますか。 (自由記載)		左欄に具体的に御回答ください
警察等取扱死体に対するA iの実績についてお伺いします。			
25	貴大学において警察等取扱死体のA iの撮影を実施していますか。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		実施している 実施していない ⇒ No. 32以降を御回答ください
No. 25で「実施している」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
26	貴大学において平成23年度、28年度、29年度、30年度に実施した警察等取扱死体のA iの撮影体数について、別表3を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
27	貴大学において、警察等取扱死体に対するA iの撮影基準はどのようなものですか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		全例で実施 腐敗死体は除く 高度焼損死体は除く 白骨死体は除く 検案では死因が特定できない事例に限定的に実施 医学的に関心の高い事例に限定的に実施 解剖前画像検査として限定的に実施 その他(下欄に具体的に御記入ください) 特に基準は設けていない
28	平成30年4月1日時点で、貴大学において警察等取扱死体のA iの撮影を担当している医師等数について別表4を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
29	平成30年4月1日時点で、貴大学において警察等取扱死体のA iの撮影を実施する際に使用している機器の種類と整備数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	単純写真(レントゲン)		台
	CT		台
	MRI		台
	US(超音波断層画像)		台
	その他		台(下欄に機器の種類を御記入ください)
30	No. 29で御回答いただいた機器のうち、A i専用で整備しているものがあれば、種別ごとの整備数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	単純写真(レントゲン)		台
	CT		台
	MRI		台
	US(超音波断層画像)		台
	その他		台(下欄に機器の種類を御記入ください)
31	貴大学において、警察等取扱死体のA iを撮影する際に使用している機器はどのようなものですか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		法医学教室が所有するA i専用機器 大学に附属する専門機関(附属病院等は除く)が所有するA i専用機器 附属病院等が所有するA i専用機器 附属病院等が所有する診療用の機器 その他(下欄に具体的に御記入ください)

⇒No. 34以降を御回答ください

No	質問事項	回答欄	選択肢等
No. 25で「実施していない」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
32	その理由はどのようなものですか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		設備がない、不足している 財政的な負担が大きい 人員、体制が不足している A iが必要な案件がない(関係機関からの要請がない) その他(下欄に具体的な内容を御記入ください)
33	A iの撮影を外部機関に依頼したことがありますか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		他大学(大学病院)、それに附属する専門機関等に依頼 民間の医療機関に依頼 上記以外の死因究明等の専門機関に依頼 その他(下欄に具体的に御記入ください)
34	貴大学において警察等取扱死体のA iの読影を実施していますか。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		依頼したことはない 実施している 実施していない ⇒ No. 41以降を御回答ください
No. 34で「実施している」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
35	貴大学において平成23年度、28年度、29年度、30年度に実施した警察等取扱死体のA iの読影体数について、別表3を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
36	平成30年4月1日時点で、貴大学において警察等取扱死体のA iの読影を担当している医師等数について別表4を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
37	貴大学において、警察等取扱死体のA iの読影はどのような体制で実施していますか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		法医が単独で読影 放射線科医が単独で読影 その他の専門医(病理医、救急医等)が単独で読影 複数の専門医が読影 A iセンター等専門機関に依頼して読影 その他(下欄に具体的な内容を御記入ください)
38	貴大学において、A iの読影をした際に、読影結果報告書等を作成していますか。作成している場合は、別表3を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		作成している 作成していない ⇒ No. 42以降を御回答ください
No. 38で「作成している」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
39	読影結果報告書等に記載する事項や要素等は何のようなものですか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		患者の個人情報(氏名、性別、生年月日等) 死亡に至るまでの経緯 死亡後、A iを撮影するまでの経緯 既往歴、現病歴 かかりつけの病院名、搬送先の病院名 直接的な死因に関する所見 直接的な死因以外に関する所見 その他(下欄に具体的に御記入ください)
40	【教授等にお伺いします】 読影結果報告書等を今後の死因究明等に活用するためにやっていることはありますか。(データベース化しているなど) ない場合、今後行う予定はありますか。予定している場合、その内容も合わせて御回答ください。 (自由記載) ⇒No. 42以降を御回答ください		左欄に具体的に御回答ください
No. 34で「実施していない」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
41	その理由はどのようなものですか。 (複数回答可) 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		専門的な知見がある人員が不足しているため 画像の撮影は、証拠保全や事例の収集・蓄積を主たる目的としているため 必要性を感じていない(関係機関からの要請がない)ため その他(下欄に具体的に御記入ください)
A i実施の有無にかかわらず、以下の間に御回答ください。			
42	【教授等にお伺いします】 解剖の要否を判断するため、スクリーニングとしてA iを実施することの有用性についてどのように考えますか。 (該当するもの一つに○)		有用である おおむね有用である どちらとも言えない あまり有用ではない 有用ではない
43	【教授等にお伺いします】 No. 42の理由はどのようなものですか。 (自由記載)		左欄に具体的に御回答ください
44	【教授等にお伺いします】 A iの実施について、悩みや課題、国に支援してほしいことなどはありますか。 (自由記載)		左欄に具体的に御回答ください

No	質問事項	回答欄	選択肢等
警察等取扱死体に対する薬毒物検査の実績についてお伺いします。			
45	貴大学において警察等取扱死体に対する薬毒物検査を実施していますか（警察の判断によるものを除く。） （該当するもの一つに○） 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		簡易キットによる薬毒物検査のみを実施している ⇒ No. 47以降を御回答ください 薬毒物定性検査のみを実施している 簡易キットによる薬毒物検査及び薬毒物定性検査のいずれも実施している いずれも実施していない ⇒ No. 47以降を御回答ください
No. 45で「薬毒物定性検査のみを実施している」、「簡易キットによる薬毒物検査及び薬毒物定性検査のいずれも実施している」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
46	平成30年4月1日時点で、貴大学において警察等取扱死体に対する薬毒物定性検査を担当している医師等数（延べ数ではなく実数で記入願います。）を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	法医		人
	薬剤師		人
	臨床検査技師		人
	その他		人
⇒No. 48以降を御回答ください			
No. 45で「簡易キットによる薬毒物検査のみを実施している」、「いずれも実施していない」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
47	薬毒物定性検査が必要な場合は、どこで実施していますか（警察の判断によるものを除く。） （複数回答可） 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		他大学（大学病院）、それに附属する専門機関等に依頼している 民間会社等に依頼している その他（下欄に具体的に御記入ください）
薬毒物検査実施の有無にかかわらず、以下の間に御回答ください。			
48	【教授等にお伺いします】 薬毒物検査の実施について、悩みや課題、国に支援してほしいことなどはありますか。 （自由記載）		左欄に具体的に御回答ください
死因究明等推進協議会（以下、「地方協議会」という。）についてお伺いします。			
49	【教授等にお伺いします】 令和元年10月末現在において貴都道府県には地方協議会が設置されていますか。		設置されている 設置されていない ⇒ No. 52以降を御回答ください 分からない ⇒ No. 52以降を御回答ください
No. 49で「設置されている」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
50	【教授等にお伺いします】 当該地方協議会の活動状況、議事内容等は御存知ですか。 （該当するもの一つに○）		よく知っている（地方協議会に参加している） よく知っている（地方協議会に参加はしていない） おおむね知っている（地方協議会に参加はしていない） あまり知らない 全く知らない
51	【教授等にお伺いします】 No. 50で「よく知っている（地方協議会に参加している）」、「よく知っている（地方協議会には参加していない）」、「おおむね知っている」と御回答いただいた場合、当該地方協議会の意義についてどのように感じていますか。 （該当するもの一つに○）		死因究明等の重要性に鑑み、十分に役割を果たしている おおむね役割を果たしている あまり役割を果たしていない 役割を果たすには不十分 その他（下欄に具体的に御記入ください）
地方協議会の有無にかかわらず御回答ください。			
52	貴大学において地方協議会以外に死因究明等に係る関係機関と連携している取組はありますか。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		ある ない ⇒ No. 54以降を御回答ください
53	No. 52で「ある」と御回答いただいた場合、どのような取組ですか。 （複数回答可） 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		情報共有の場を設けている 研修など人材育成に係る取組を共同で実施している 大規模災害等を想定した合同訓練等を共同で実施している その他（下欄に具体的に御記入ください）
死因究明等に関わる医師の人材確保・人材育成についてお伺いします。			
54	令和元年10月末現在において、貴大学では、法医人材養成に特化したコース等を置いていますか。		置いている 置いていない ⇒ No. 59以降を御回答ください
No. 54で「置いている」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
55	法医人材養成に特化したコース等が置かれたのはいつですか。	平成●年●月	左欄に和暦で御回答ください
56	平成30年4月1日時点で、当該コース等に何名が在籍していますか。学生種別ごとに御回答ください。		
	学部生		人
	大学院生（医師免許なし）		人
	大学院生（医師免許あり）		人
57	平成26年度から30年度までの間に当該コース等を卒業した学生の人数を御回答ください。		人

No	質問事項	回答欄	選択肢等
58	No. 57の卒業生のうち、法医学に携わっている者の人数について、以下の所属先等別に卒業直後の進路で御回答ください。 大学（院）の法医学教室 大学の附属病院 大学に附属する死因究明等の専門機関 上記以外の死因究明等の専門機関 監察医 民間の医療機関 その他		人 人 人 人 人 人 人（下欄に具体的な所属先等を御記入ください）
⇒No. 60以降を御回答ください			
No. 54で「置いていない」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
59	平成26年度から30年度までの間に貴大学（院）の医学部を卒業した学生について、以下の所属先等別に卒業直後の進路を御回答ください。 大学（院）の法医学教室 大学に附属する死因究明等の専門機関 上記以外の死因究明等の専門機関 監察医 その他の法医学関係機関等		人 人 人 人 人（下欄に具体的な所属先等を御記入ください）
法医学人材養成に特化したコース等の設置有無にかかわらず、以下の間に御回答ください。			
60	【教授等にお伺いします】 法医学を担う医師が増加しない要因についてどのように考えていますか。（該当するもの三つまでに○）		大学院教育の魅力が低い 修学資金の確保が困難 法医学に対する学生の興味・関心が低い 法医学教育研究体制が不十分 収入面等で他に魅力的なキャリアがある 法医に関する将来の就職先（ポスト）がない 業務が多忙で体力面での負担が大きい その他（下欄に具体的に御記入ください）
61	【教授等にお伺いします】 法医学人材養成について、悩みや課題、国に支援してほしいことなどはありますか。（自由記載）		左欄に具体的に御回答ください
研修についてお伺いします。			
62	平成23年度、28年度、29年度、30年度、令和元年度（令和元年度は4月から10月末まで）において、貴大学では死因究明や身元確認に係る研修を実施（主催・共催）していますか。（実施している年度に○） 実施している場合は、別表5を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		平成23年度 平成28年度 平成29年度 平成30年度 令和元年度（4月から10月末まで） どの年度も実施していない
63	死因究明や身元確認に係る研修について、悩みや課題はありますか。国に対し、具体的に支援を求めることはありますか。（自由記載） 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		左欄に具体的に御回答ください
公衆衛生（児童虐待、熱中症、消費者事故等を含みます。）についてお伺いします。			
64	平成23年度、28年度、29年度、30年度において、死因究明により得られた情報について、公衆衛生上の観点で関係機関からの通報・情報提供（例：自殺に関する分析結果等について都道府県からの情報提供など）を受けたことがある場合、その件数及びそれを受けての対応状況等について別表6を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
65	平成23年度、28年度、29年度、30年度において、死因究明により得られた情報について、公衆衛生上の観点で関係機関に対して情報提供（例：児童虐待に関する事例について、収集・分析した結果を児童相談所に情報提供など）をしたことがある場合、別表7を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		

No	質問事項	回答欄	選択肢等
66	平成30年度において、他大学や裁判所などの他機関から依頼を受けて、再鑑定等（小児科等からの生検依頼も含む。）を行ったことはありますか。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		ある ない ⇒ No. 70を御回答ください
No. 66で「ある」と御回答された場合、以下の間に御回答ください。			
67	依頼を受けた件数をそれぞれ御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		
	死因特定の再鑑定		件
	小児科医等からの生検依頼・相談等		件
68	依頼元はどちらですか。 （複数回答可） 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		同一大学（病院）内の他の診療科 同一都道府県内の医療機関 同一都道府県内の警察 同一都道府県内の児童相談所や老人ホーム等施設 他都道府県の医療機関 他都道府県の警察 他都道府県の児童相談所や老人ホーム等施設 遺族等 その他（下欄に具体的に御記入ください）
69	依頼を受けて対応（結果の報告）を行った件数を御回答ください。 【大学に附属する病院等も合わせて御回答ください】		件
情報提供等の実績の有無にかかわらず、御回答ください。			
70	【教授等にお伺いします】 死因究明により得られた情報を公衆衛生に活用するに当たって、悩みや課題はありますか。国に対し、具体的に支援を求めることはありますか。 （自由記載）		左欄に具体的に御回答ください

SAMPLE ✓

別表1 大学（大学病院）に附属する死因究明等の専門機関における職員体制

大学名 ●●大学
(人)

専門機関 職員数	法医		放射線科医		その他の医師		歯科医師		放射線技師		臨床検査技師		その他の技師		事務職
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
大学所属															
大学非所属															

(注) 1 平成30年4月1日時点の実員数を御記入ください。それ以降に専門機関が設置されている場合は、当該専門機関の設置時点の実員数を御記入ください。
 2 該当がない場合には「—」を御記入ください。



別表2 貴大学における解剖実施体数

大学名

●●大学

(体)

解剖種別	平成23年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
司法解剖実施体数				
調査法解剖実施体数				
承諾解剖実施体数				
監察医解剖実施体数				

- (注) 1 大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関（剖検センター、A iセンター等）も含まれます。
2 各年度末時点の解剖実施体数を御記入ください。
3 分からない場合は「不明」、該当がない場合には「—」を御記入ください。

別表3 貴大学におけるA i 実施体数

大学名

解剖種別	平成23年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
司法解剖を実施する遺体に対するA i 撮影数 (体)				
司法解剖を実施する遺体に対するA i 読影数 (体)				
うち、読影結果報告書等作成件数				
調査法解剖を実施する遺体に対するA i 撮影数 (体)				
調査法解剖を実施する遺体に対するA i 読影数 (体)				
うち、読影結果報告書等作成件数				
承諾解剖を実施する遺体に対するA i 撮影数 (体)				
承諾解剖を実施する遺体に対するA i 読影数 (体)				
うち、読影結果報告書等作成件数				
監察医解剖を実施する遺体に対するA i 撮影数 (体)				
監察医解剖を実施する遺体に対するA i 読影数 (体)				
うち、読影結果報告書等作成件数				
解剖を実施しない遺体に対するA i 撮影数 (体)				
解剖を実施しない遺体に対するA i 読影数 (体)				
うち、読影結果報告書等作成件数				

(注) 1 大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関(剖検センター、A i センター等)も含まれます。

2 各年度末時点の解剖種別ごとのA i 実施体数を御記入ください。

3 1遺体に対して2種類の機器(CTとMRI等)でA i を実施した場合、「1体」と計上してください。

4 分からない場合には「不明」、該当がない場合には「—」を御記入ください。

別表4 貴大学においてA i を担当している医師等数

大学名 ●●大学

(人)

医師等種別	撮影のみを担当している	撮影と読影を担当している	読影のみを担当している	総数
法医				
放射線科医				
放射線技師				
その他				

- (注) 1 大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関（剖検センター、A i センター等）も含みます。
 2 平成30年4月1日時点で、貴大学に所属している医師等でA i を担当している者の人数を御記入ください。
 3 分からない場合には「不明」、該当がない場合には「—」を御記入ください。

SAMPLE

別表5 貴大学が主催となって実施している死因究明や身元確認に係る研修

大学名 ●●大学

年度	研修名	研修テーマ							開催回数	対象者								参加延べ人数	研修の効果・意義		
		文部科学省からの開催の要請による定期的な研修会	検案	解剖	Ai	薬毒物検査	身元確認	その他		大学内部				大学外部					研修の効果・意義	理由	
										医師	歯科医師	学生	その他	医師	歯科医師	学生	その他				
平成23年度																					
平成28年度																					
平成29年度																					
平成30年度																					
令和元年度 (4月～10月末)																					

(注) 1 大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関(剖検センター、Aiセンター等)も含まれます。
 2 「研修名」欄は年度ごとに正式名称で御記入ください。行が足りない場合は、適宜行を足してください。
 3 「研修テーマ」欄は該当する欄全てに「○」を御記入ください。
 4 「対象者」欄は該当する欄全てに「○」を御記入ください。
 5 「研修の効果・意義」欄のうち、「理由」欄でその他を選択した場合、右欄に具体的に御記入ください。

別表6 公衆衛生（情報提供を受けた件数、対応状況等）

大学名

●●大学

		平成23年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
通報・情報提供を受けた件数					
通報・ 情報 提供 元	国の機関				
	他都道府県（保健所含む）				
	都道府県（保健所含む）				
	都道府県警				
	市町村（保健所含む）				
	監察医				
	他大学（附属病院及び専門機関を含む）				
	医療機関（自大学附属病院を除く）				
	消費生活センター				
その他（右欄に御記入ください）					
対応件数					
対応 内容	他学部等、大学内での情報共有				
	関係機関等に情報提供				
	通報・情報提供された内容に関連した調査を実施（非公表）				
	通報・情報提供された内容に関連した調査を実施し、調査結果を公表				
	その他（右欄に御記入ください）				
不明					
対応しなかった理由		プルダウンで選択してください			

(注) 1 大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関（剖検センター、A iセンター等）も含まれます。

2 「通報・情報提供を受けた件数」、「対応件数」欄は、各年度末時点の件数を御記入ください。なお、分からない場合は「不明」、該当がない場合は「—」を御記入ください。

3 「通報・情報提供元」、「対応内容」欄は、該当するもの全てに「○」を御記入ください。

4 「対応しなかった理由」欄は、該当するものをプルダウンで選択ください。また、「その他」を選択した場合は、下欄にその内容を御記入ください。

別表7 公衆衛生（情報提供をした件数等）

大学名

●●大学

		平成23年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
情報提供をした件数					
情報提供先	国の機関				
	他都道府県（保健所含む）				
	都道府県（保健所含む）				
	都道府県警				
	市町村（保健所含む）				
	監察医				
	他大学（附属病院及び専門機関を含む）				
	医療機関（自大学附属病院を除く）				
	消費生活センター				
	児童相談所				
その他（右欄に御記入ください）					
提供実績がない理由		プルダウンで選択してください			

- (注) 1 大学に附属する病院、死因究明等に係る専門機関（剖検センター、A iセンター等）も含みます。
 2 「情報提供をした件数」欄は、各年度末時点の件数を御記入ください。なお、分からない場合は「不明」、該当がない場合は「—」を御記入ください。
 3 「情報提供先」欄は、該当するもの全てに「○」を御記入ください。
 4 「提供実績がない理由」欄は、該当するものをプルダウンで選択ください。また、「その他」を選択した場合は、下欄にその内容を御記入ください。